

■関沢明清　水産業指導者。大日本水産会創設し、水産伝習所初代所長。わが国近代漁業を創始、洋上捕鯨にも先鞭。

せきざわあきよ

順天堂始・・・1843＝　金沢で、加賀藩士関沢安左衛門房清の次男に生まれる。通称は孝三郎。

阿部正弘首座1845＝　2歳：

父は経世家上田作之丞の高弟で、改革めざす藩士の集まり{黒羽織党}のリーダーになっており、

尊徳報徳論・1851＝　8歳：この年、諸国遊歴中の横井小楠が金沢に滞在した際、師とともに頻繁に交流し、小楠に強い印象を残し、
万次郎帰国・1852＝　9歳：江戸に出て、佐久間象山の門弟にもなるほど、開明的であった。

ペリー来航・1853＝10歳：

開国開港・・・1854＝11歳：突然罷免された父から、黒船に象徴される西洋技術こそ日本に必要と論され、

蕃書調所・・・1857＝14歳：元服し、明清と名乗る。

桜田門外変・1860＝17歳：

遣欧使節・・・1861＝18歳：

江戸に遊学し、江川太郎左衛門・大村益次郎に師事して蘭学を修めるとともに、幕府の遣米・遣欧使節団に加わっていた佐野鼎の勧めで英語にも磨きをかけ、
8月18日政変　1863＝20歳：加賀藩最初の甲鉄鑑となる英国製の{発機丸}受取りのため横浜へ出張し、新番組御歩に召し出され、軍艦運用方棟取役を命じられて{発機丸}に乗り組む。

薩摩藩士密航1865＝21歳：上洛の折、新鑑購入の命を受け、長崎で英国製軍艦{李白里丸}購入の任に当たる。藩から留学の密許を得て薩摩藩士の渡欧に同行、ロンドン大学に学んで、

明治維新・・・1868＝25歳：維新直後に帰国、藩学校の英学教師となり、英語学校{致远館}を設立。

戊辰戦争終・1869＝26歳：金沢藩権少属に任用され商法掛となる。佐野鼎を助け七尾製造所の建設に着手するも、

初の日刊新聞1870＝27歳：版籍奉還で免職となり、大聖寺・金沢藩士が兵庫に設立した加州製鉄所(川崎造船所)経営に参画するが、
廃藩置県・・・1871＝28歳：薩藩置県となり全てが無になったところ、旧藩主嗣子前田利嗣の英国留学に随行、再びロンドンに渡る。

学問のすすめ1872＝29歳：人材探していた政府からの電報で帰国、正院六等出仕となり、万国博覧会参加準備の事務取扱となる。

明治6年政変　1873＝30歳：ウィーン万博へ一級事務官として派遣され、三級事務官として来た津田仙の西洋技術導入の志に啓発され、スウェーデン・ノルウェー館で水産業の規模を聞いて、またオーストリア農業館で養魚技術の凄さを知って衝撃受け、水産技術振興こそ日本に必要と、さらに調査研究を進めようとするが、過労で倒れ、帰国。

初の民間工場1875＝32歳：今度は米国博覧会事務取扱を命じられ、内務省勸業寮六等出仕に補せられる。米国へ派遣され、

三つの反乱・1876＝33歳：フィラデルフィア万博準備に当たり、米国及びカナダで鮭鱒の人工孵化事業と缶詰製造法を学び、機械を携えて帰国。内務卿大久保利通に水産業の開発を建議し、勸業寮に水産掛の設置をみ、

西南戦争・・・1877＝34歳：*勸業寮廃止で、内務省御用掛・勸農局事務取扱に代る。以後、人工孵化の必要を唱導して各地に出張、神奈川県に官営初の養魚場開設、北海道で缶詰企業化試験。新設の官立駒場農学校校長を兼任。

大久保暗殺・1878＝35歳：父が死去。勲五等双光旭日章を授与される。

琉球処分・・・1879＝36歳：第二回内国勸業博覧会審査官、次いでベルリン万国漁業博覧会事務取扱。オーストリア皇帝より勲章。

明治14年政変1881＝38歳：農商務省の設置に伴い農務局事務取扱。

新体詩抄・・・1882＝39歳：農商務省少書記官。出張ついでに北海道を巡歴し、海防と漁業について川村純義・西郷従道に建議。第一回水産博覧会出品及び審査科長。*この年の大日本水産会の創立に尽力し、

岩倉具視没・1883＝40歳：第一回水産博覧会が開催され審査部長となる。仕事に忙しく、この頃ようやく結婚し、

秩父事件・・・1884＝41歳：5年前に石川県犀川・三面川で放流した人工孵化したサケの稚魚が、この年になって初めて大量に回帰、

内閣発足・・・1885＝42歳：長男が誕生。水産局新設に当たり同局事務取扱、漁務課長兼試業課長となり、水産局次長心得に昇進。

帝国大学始・・・1886＝43歳：農商務省少技長、勲四等旭日小綬章。この頃、千葉県九十九里浜のイワシ漁が不漁続きで漁民の困窮を救済のため出張、地曳き網に代えて米国式巾着網による沖漁業を奨励し、自らひな型を作って指導。

国民之友始・1887＝44歳：伊豆七島巡回視察し、近海の鯨群に着目、米国式捕鯨銃を改良して試み成功。

初の対等条約1888＝45歳：次男が誕生。房総勝山の捕鯨業者を指揮して伊豆大島近海に出漁、成果挙げ日本水産会社が設立される。

帝国憲法発布1889＝46歳：*新設の水産伝習所所長に推され、また(農学校の後身)東京農林学校に新設の水産専修科教授となる。

帝国議会始・1890＝47歳：水産局が廃されて移管された農務局第四課課長となる。第三回内国勸業博覧会で初めて水産が独立の部門となり、審査官として大いに努め、後にこの功で紫綬褒章を授けられる。

足尾鉋毒始・1891＝48歳：長女が誕生。

大本教・・・1892＝49歳：当時解散の危機にあった日本水産会社を立て直し、遠洋漁業の振興を図ろうと退官、房総半島館山に居を構えて、捕鯨及び遠洋漁業事業に乗り出す。外務省の委嘱で、朝鮮半島沿海の漁業状況を調査、

郡司千島探検1893＝50歳：妻が病死、子どもたちの養育のため再婚。

日清戦争始・1894＝51歳：金華山沖の抹香鯨漁に挑戦して成功、日本初の抹香鯨捕獲者となり名声を高める。再び朝鮮に赴き、釜山水産会社の業務を監督するが、心臓病を発して帰国。

日清戦争終・1895＝52歳：第四回内国勸業博覧会審査官。水産調査委員となる。

白馬会・・・1896＝53歳：自ら遠洋漁業用に考案の洋式帆船{豊津丸}を指揮して伊豆大島沖のマグロ漁に従事するが、

八幡製鉄始・1897＝54歳：*帰港の途中心臓発作を起こして倒れ、まもなく没した。